



創立152年

教育目標 わたしから考える子 にこにこ元気な子 つづけてがんばる子 こころを合わせる子
わにっこり

和邇小だより 令和7年 4月号

児童数377名 文責 澤村幸夫



青は藍より出でて藍より青し

令和7年度スタート



校門前の桜が新年度に向けての活力を表現し、そよ風は、心や体のわくわく感とともに、前に一歩踏み出す背中を押してくれています。令和7年度が、期待に胸膨らませながらスタートしました。

4月9日、61名の新入生を迎えて入学式を行いました。お家の方々の、温かいまなざしと愛情に包まれて入学してきた子どもたちは、とても緊張したと思います。これからの小学校での生活をお兄さん、お姉さんとともに、その子らしい生活ができるよう教職員一同、努力して参りたいと思います。

「青は藍より出でて藍より青し」（青という色は、藍染めの過程を経て、元の植物の藍の色よりも青くなる、ということからのことわざ）という言葉があります。和邇小学校においても、藍染めの過程のように、様々な取組や教育活動により、子どもたちが本来もっている力が更に高まり、元の色よりも色が増していくような学校を目指します。さらに、「青は藍より出でて藍より青し」のことわざは、本来、教えられた弟子が師匠を超えていくこと、つまり子どもたちが無限の可能性を持ち、私たち教職員をはるかに乗り越えていくことも表しています。今年度、新しい教職員の仲間が加わりました。私たち「チーム和邇」の教職員が保護者の皆様や地域の皆様に支えられながら、子どもたちの成長と自立につながりますよう、邁進してまいります。引き続き、ご支援・ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

今年度の教職員です。よろしくお願いします

◇ 校長：澤村 幸夫 ◇ 教頭：***** ◇ 教務主任：*****

◇ 教務：*****（生徒指導）・*****（教科専科）

*****（子ども支援コーディネーター・教育相談）

◇ 養護教諭：*****・***** ◇ 事務職員：*****

◇ 非常勤講師：*****（初任者後補充）・*****（3年算数少人数）

◇ 特支アシスタント：***** ◇ スクールソーシャルワーカー：*****

◇ 用務員：*****・***** ◇ スクールサポートスタッフ：*****

◇ 支援員：*****・***** ◇ 配膳員：*****・*****

◇ 拠点校指導教員：***** ◇ ALT：*****



学校のグッピー
本文との関連はありません。

学年	担 任	担 当
1年	A: ***** ・ B: *****	*****
2年	A: ***** ・ B: *****	
3年	A: ***** ・ B: *****	*****
4年	A: ***** ・ B: *****	
5年	A: ***** ・ B: *****	*****
6年	A: ***** ・ B: *****	
お花	A: ***** ・ B: ***** C: ***** ・ D: *****	

チーム担任制

各クラスにはそれぞれ担任を配置しますが、「学年みんなが担任」を合言葉に、学年の子どもたち全員を担当するという意識で関わります。教科指導も担任をはじめ複数の教師が担当します。学年の担任が授業を交換したり、時には担任が入れ替わり、給食や掃除・帰りの会を受け持ったりします。

学校教育目標



学校教育目標とは、学校が育成を目指す資質や能力、学校や地域の実態を踏まえた教育の方針をさします。法律や学習指導要領に定められた目的や目標を前提として作成しています。長期的な目標と短期的な目標を組み合わせています。毎時間の教室での授業をはじめ、校外での学習など多くの活動は、この「学校教育目標」を達成するために実施するものです。

予測困難な未来を子どもたちがたくましく幸せに生きていくために、知識や技能だけではなく、思考力・判断力・表現力を身につけていきたい、さらに、課題を解決するに留まらず、自ら課題を見つけ、周囲と関わりながら協働して課題解決していく力を大切にしていきたいと考えています。

また学校は、地域社会とより連携を深め、相互的に協力し合い、子どもたちを共育していくことが必要です。「自然・歴史・人」に恵まれる和邇地域の強みを生かして、子どもたちのより良い教育環境に向けて努力していきます。本校の学校教育目標には「私たちが生まれ育つ、和邇に誇りと親しみを持つ児童に育てほしい。そして思いやりの気持ちを持ち、多くの人々と関わり学び合う中で、深くつながり、心も身体も頭も健やかに成長してほしい。」そんな意味が込められています。



【知】 自ら考え、ねばり強く学び合う子ども

【体】 生命を尊び、健康でたくましい子ども

【徳】 思いやりの気持ちを持ち、心を合わせる子ども

【地域】 生まれ育った和邇を愛し、大切に作る子ども

親しみやすく「わ・に・つ・こ」の頭文字から、このような言葉で言い表しています。ご家庭でも共通の声かけをしていただけるとありがたいと思います。

「わたしから考える子」（知的側面）

「自ら考え実践する子どもを育てる」ことをめざします。指示されるからではなく、自分の頭で考え、行動で表すことを大切にします。

「にこにこ元気な子」（身体的側面）

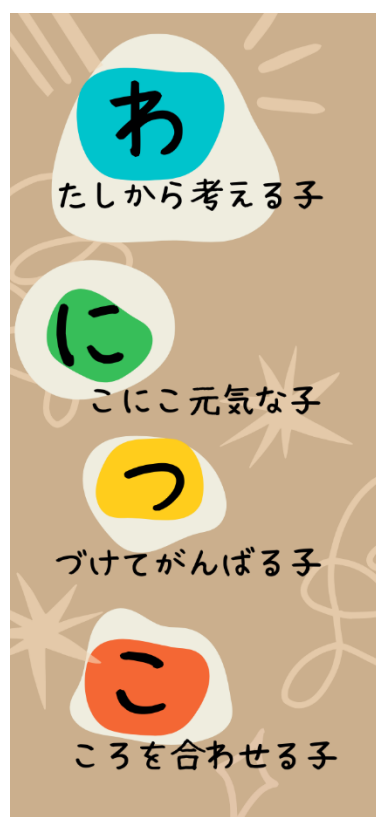
「生命を尊び健康でたくましい子どもを育てる」ことをめざします。「にこにこ」と幸せに生活するためには、心も体も健康でたくましく育つことが必要です。

「つづけてがんばる子」（情意的側面）

「進んで取り組み、ねばり強くやりとげる子どもを育てる」ことをめざします。結果だけでなく「ねばり強くやりとげる」ことを応援します。

「こころを合わせる子」（社会的側面）

「思いやりの心を持ち、協力・協働できる子どもを育てる」ことをめざします。よりよい人間関係を作っていく力は生きていく上でとても重要な力です。「協力・協働」できる資質は、実際に体験し学ぶことで身につけていきます。





第1弾 「自尊心を育む」

このコーナーは、子育てと子どもの幸せをサポートする情報を提供するニュースレターです。子育てのヒントやこれからの時代に大切にしたい教育の話、健康で幸せな生活に役立つ情報を掲載したいと考えています。これまで、「自尊感情を高めるために」と「子どものウェルビーイング」「未来への扉」というシリーズものを掲載してきましたが、今年度は「未来の宝物」と名づけました。子どもは「地域の宝」です。未来をたくましく生きる子どもたちにつけてほしい本当の力とはいったい何か、子どもが生涯にわたり幸せに生きていくには、周囲の大人はどんな関わりを大切にしていけば良いのかについて、共に考えていきたいと思っています。

第1弾は「自尊心を育む」です。先日、小学校と幼稚園・保育園の接続を考える研修の機会に次のようなエピソードを聞くことができました。ある幼稚園で、園児たちがブロックで遊んでいた時、年長の男の子が怒鳴ったそうです。「ぼくが使おうと思ったんや!」使いたかったブロックを、先に友だちが手にしたらしく、怒りは収まらず、保育士が廊下にその男の子を連れだして落ち着かせたそうです。30人の子どもを3人の職員でみる園でさえ、子どもはストレスを感じ、イライラを抑えられなくなる。35人で1学級、1人の担任になる小学校では、ストレスは増えトラブルとなります。その研修では「じっくりと子どもに関わる態勢が学校にも家庭にも必要なのでは。自分の気持ちを大人よりうまく伝えられない子どもには、まず、じっくり気持ちを聞くことから始めてみては」ということでした。

駄々をこねる子どもに、ご褒美で納得させたり、スマートフォンの動画を見せたりする親を目にすると、「気持ちを聞くことで、子どもは気持ちを言葉にする作業を覚えるもの。言葉を吸収する機会が、親の多忙やスマホ使用で減ってしまっている。親はもっと手間ひまをかけて子どもと会話すべき。」と結論づけていました。



学校のエンゼルフィッシュ
本文との関連はありません。

子どもが感情をコントロールするには、乳幼児期に、自分は肯定される存在なのだ、という自我が形成される必要があります。自我がちゃんと育たないと、自分の気持ちがわからなくなります。気持ちがわからなければ言葉にすることができず、モヤモヤやイライラにつながります。感情を自分でコントロールするためには、相手の気持ちに気づいて理解する力、相手の立場に立って考える力、思い通りにならなくても我慢する力などの発達が必要ですが、そのカギを握るのは、「自分が認められ、大切にされる存在だと思う自尊心」だと思います。自尊心が低い子どもは否定されたり、抑圧されたりしてきた経験から、された行為に悪意を読み取りがちでキレやすくなります。子どもは、主体性を発揮し、自尊心や誰かの役に立っていると感じる自己有用感を感じる

なかで、自分の感情をコントロールできるようになっていきます。今の子どもたちを取り巻く環境に目を向けると、少子高齢化により、地域での活動や家庭におけるきょうだいの数は減り、地域や家庭の中で「自分の役割を果たす」場面は少なくなっているように思います。つまり、子ども自ら行動できる場面が少なく、自尊心が育ちにくくなっている可能性があります。

小学校の教育活動では、子ども自らが自分の考えで行動できる場面をできるだけ多く設定することを心掛けていきたいと思っています。主体的に活動し、自分たちで企画し、実行する、そんな場面の設定です。さらに「自己決定」する機会を増やすことです。自分が決めたことは、最後まで納得してやり遂げることができます。

各ご家庭においては、子どもの話をじっくり聞き、その時、どんな気持ちになったのかを親が聞き、子どもが言葉にすることで、自尊心が育まれていくものだと思います。



学校のディスカス
本文との関連はありません。